



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

8月15日の首相の靖国神社玉串料奉納、閣僚の参拝に抗議します

内閣総理大臣 安倍晋三様
総務相 高市早苗様、
文部科学相 萩生田光一様、
環境相 小泉進次郎様、
沖縄北方担当相 衛藤晟一様

私たち「日本キリスト教協議会靖国神社問題委員会」は、首相や閣僚らが靖国神社に参拝及び玉串料や真榊等を奉納することに対して、毎年抗議を続け、今年の7月20日にも8月15日の敗戦記念日に玉串料の奉納を行わないよう要請を致しました。それにもかかわらず今年の8月15日に、安倍首相は玉串料を奉納し、高市早苗総務相、萩生田光一文部科学相、小泉進次郎環境相、衛藤晟一沖縄北方担当相の4閣僚は同神社の参拝を行いました。

これら首相の靖国神社への玉串料奉納、4閣僚の同神社の参拝は、日本国憲法20条3項の政教分離原則違反であり、憲法尊重擁護義務を無視した行動です。8月15日敗戦記念日における首相の同神社玉串料奉納は第二次安倍政権発足以来8年連続であり、また敗戦記念日における閣僚の靖国参拝は2016年以降途絶えていたものの、今年は第二次安倍政権発足以来最多の4閣僚もが行ったこととなり、同政権の憲法無視の行動は常習的かつ意図的であると言わざるを得ません。戦前・戦中において国家神道体制が軍国主義の支柱となり国民の思想統制及びアジア諸国への侵略を徹底させた歴史の反省に立たず、日本政府が再び、同神社との結びつきを強めようとするものであり、見逃すことが出来ません。

2000万人ものアジア諸国の人々のいのちを奪った侵略戦争において大きな役割を果たし、現在も尚、その侵略を美化した歴史観を表明する靖国神社へ首相や閣僚が参拝等を行うことは、アジア諸国の人々を傷つけ、互いの良好な関係を損なわせるものです。特に参拝を行った4閣僚が報道を前にして語った発言は、日本政府への信頼を著しく損なうものです。衛藤晟一沖縄北方担当相は「中国や韓国から言われることではない。」と語り、高市早苗総務相も「決して外交問題にしてはいけないし、外交問題ではありえない。」と発言しました。相手を傷つけながら、問題にする方がおかしい、と言わんばかりの発言は、加害者が被害者の痛みを全く理解せず、理解しようとしめない傲慢な態度という他はありません。小泉進次郎環境相は「(参拝を)行ったことがニュースになること自体がなくなる時代にしなければならない。」と語り、衛藤晟一担当相は「そういう(報道機関の)質問の方が異常だ。」と語ったとのことですが、このような歴史認識と発言の稚拙さは政治家としての資質を疑わせるものです。

例えアジア諸国からの批判がなかったとしても、日本にとって、加害の歴史は、深く心に刻み記憶し

続けなければならないものであって、忘却したり、なかったことにしたり、修正するなどしてよいはずがありません。それは、かつて大日本帝国憲法下の政府が行った国民への加害行為とも言うべき無謀にして無策の15年戦争の責任をあいまいにし、ひいては、現在の政府が歴史の審判に耐え得る公正で合理的な政策決定を行うことを妨げるものです。

首相及び閣僚は、戦後75年の年に、侵略加害の歴史の反省に立ち、日本国憲法尊重擁護義務を負う立場として、政教分離原則を厳格に遵守し、以後、同神社への参拝及び奉納等を止めるようここに厳重に抗議します。

2020年8月18日

日本キリスト教協議会（NCC 靖国神社問題委員会

委員長 星出卓也